

このルールは私たちの心に深くしみこんでいます。売買以外の場面でも等価交換的な考え方がしばしば見られます。人類学には「互酬性」という用語があります。たいていの人間関係も、何かしらの Give and Take を原則としているということです。たとえばある人が誰かに贈り物をすると、もらった人が別の機会に贈り物をするのが普通です。

しかし聖書にはそういう人類の大原則を超克した考え方があります。たとえば、食事をふるまうときには近所の金持ちなどを招いてはいけない、という不思議な勧めがあります。むしろ貧しい人などを招くようにということです。それは、近所の金持ちなどを招くと、後で招き返されるからだと言明されています。でも貧しい人にはお返しできません。だから神がお返しをしてくれる（祝福してくれる）のだ、という説明がなされます。そしてそれは「天に宝を積む」として表現されます。本当に富んでいるのは、この世でたくさんの財産を持っていることではなく、天に宝を持っていることだというわけです。永遠に朽ちない天の宝は、神のみこころを行なうことで積むことができるという論理です。

それではこの世の等価交換を超える推進力は何でしょうか。聖書は、それは「愛」だと考えています。「愛されるより愛する方が幸いだ」とまで言われています。経済学的に考えると「お金をもらうよりあげる方が幸いだ」と言っているようで多少逆説的に響きます。でも天を射程に入れた愛の経済学は、与えれば与えるほど自分が富んでいくものなのです。

宗教的にそれを表現すると「愛は多くの罪を覆う」ということになります。聖書における「罪」は対価を必要とします。誰かが支払わなければなりません。しかし愛は罪の対価を支払ってしまう性質があるようです。

#### 【聖歌隊へのお誘い】

大学礼拝では、聖歌隊の合唱による賛美をプログラムしています。どなたでも参加できます。斉唱のみでなく、合唱で賛美をする楽しさは、世界を広げます。礼拝後、オルガン前に集合してください。

#### 【次回の礼拝】

次回の礼拝は後学期になります。2019年9月24日の予定です。

【前回の出席者】 2019年7月23日

学生 200名 教職員他 8名 計 208名

## 【大学礼拝週報】 2019年度 第15号（前学期第15号）

2019年7月30日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

### 《大学礼拝》

司 式 高橋優子（獣医学類教員）  
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）  
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「あわれみは、われにきたもう」（ペティト作曲）

讃 美 讃美歌 461番（主われを愛す）

聖 書 ペトロの手紙一 4章8節

祈 り

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨 励 「『鋼の錬金術師』一等価交換を超える一」

高橋優子（獣医学類獣医倫理学研究室准教授）

讃 美 讃美歌二編 167番（われをもすくいし）

報 告

後 奏 「すべてのものよ、神に感謝せよ」（バイエル作曲）

【本日の聖書】 ペトロの手紙一 4章8節

何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。

#### 【等価交換？】

はるか昔に経済活動は物々交換ではじまったと考えられます。しかし異なる物の価値は簡単に等価にはなりませんので、それを媒介する希少金属が重さを量って使用され、やがて現在のように貨幣が使用されるようになりました。等価交換は経済の基本原則です。簡単に言うと、売買とは同価値の財の交換です。